

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

建設部都市計画課

建設部長 大山 仁志

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
24-005	ふるさと景観づくり 推進事業	なし	B	景観条例に基づく対象行為に対してア ドバイスを行い、改善を促すことで、目 標を達成できた。 また、ふるさとへの関心を深め、愛着 を育むため実施している風景絵画& フォトコンテストの展示をリニューアル オープンにより来場者が増加したMIM (MIMホール内)で新たに行うことで、 作品に触れる機会が拡大に努めた。さ らに、出前講座を亀崎小学校と岩滑小 学校の2校(5クラス)で開催し、景観 に対する意識向上を図った。	現状 維持	景観アドバイザーによる助言指導が、 良好な景観形成に反映されるよう、引 き続き届出者に対し改善を求めてい く。 また、風景絵画&フォトコンテストの応 募者を増やすため、小中学校等への 個別PRに努め、インスタグラムフォ ト部門は、周知の時期を早め実施する。 さらに、景観に対する意識を深め、景 観づくりの大切さを学んでもらうため小 学生を対象とした出前講座を今後も継 続して開催していく。
24-006	景観形成推進事業	あり	C	景観形成推進のための補助金による 助成を、半田運河周辺地区で1件、岩 滑地区で3件、亀崎地区で6件実施し た。想定していた案件が未実施となっ たため、目標値を下回る結果となっ たが、実施件数としては前年度より7件 増となった。また、良好な景観形成推 進のため、矢勝川に架かる岩滑西橋 の高欄の整備を実施するとともに、同 地区の景観づくり推進事業補助金の 活用を促すため、戸別訪問によるPR 活動を行った。	現状 維持	良好な景観が形成されることは、来訪 者の増加にもつながるため、今後も景 観づくり推進事業の補助制度につい て、戸別訪問によるPR活動などにより 周知を図る。
24-007	児童遊園、ちびっ子 広場管理運営事業	なし	A	不足していたベンチを、平成30年度に 45基設置し、休憩施設の機能充実を 図ることができた。	拡充 推進	遊具改修と休憩施設であるベンチにつ いて一定の整備が完了したため、今後 はトイレやフェンス等の施設改修を計 画的に実施していく。
24-008	公園管理事業	なし	B	遊具保守点検等の結果を踏まえた計 画的な改修等により、突然の使用停止 や緊急修繕を未然に防ぎ、公園内 での事故もなく、利用者の安全を確保 することができた。また、職員による定期 パトロールを実施することで、危険個 所の早期発見や樹木剪定について迅 速な対応をすることができた。	現状 維持	今後も公園利用者が安全かつ快適に 使用できるよう、職員や樹木管理委託 業者による定期パトロールを実施し、 適切な公園の管理に努めていく。
24-010	公園整備・改修事業	あり	B	職員による定期的なパトロールにより 乙川白山公園展望台が危険であるこ とが判明し、撤去したことで未然に事 故を防ぐことができた。また、不足して いたベンチを寄付により、51基新たに 設置することができ、不足を解消する ことができた。	拡充 推進	遊具については、令和2年度までに全 て健全な遊具へと改修し、利用者の安全 確保に努める。また、ベンチ不足につ いて、一定の整備が完了し解消され たことから、今後は利用者が気持ちよ く使用できるように、老朽化したトイレ 建物の改修を進めていく。
24-011	任坊山公園整備事 業	あり	B	着工前に有識者立会いのもと残すべ き樹木の選定を行うなど、既存の自然 を極力残すように努めた。また、造成 に必要な12,500㎡の土砂を民間事業 者より無償で受け入れることができた ため、コストの縮減が図れた。	現状 維持	「任坊山公園を考える会」で決定され たコンセプト「自然を感じ、健康を育む 公園」として整備し、地域の人たちに親 しまれ、多くの人に利用される公園とし て、令和2年4月の供用開始を目指す。
24-012	(仮称)大高公園整 備事業	あり	B	地元住民と協議をするなか、地域が望 む公園の設計を完了することができ た。	現状 維持	地元要望に応えることのできるよう 設計の細部にわたり協議し、令和2年 4月の供用開始を目指す。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
24-013	緑化維持管理事業	なし	B	街路樹の管理については、樹木管理委託業者による維持管理のほか、職員のパトロールにより事故がなく適切な管理に努めることができた。また、緑化イベントを市民が集まる場所で開催することで、緑化の推進に努めた。	現状維持	歩行者や通行車両の安全確保のため、引き続き職員による定期的なパトロールを実施することで、適切な樹木管理に努める。また、市民が集まる場所でのイベント開催に努め、緑化への関心をより高めていく。
24-014	あいち森と緑づくり事業	あり	B	旧ちびっ子広場等である成岩本町公園や道池公園は、当事業により整然とした潤いある緑の公園へと様変わりし、快適に利用できることで来園者が増える状況となった。また、成岩本町公園は、地元自治区による植樹会で自ら植樹したことで、親しまれる公園となった。民有地緑化においては更なる利用拡大をどのように図るかが今後の課題である。	改善推進	「あいち森と緑づくり事業」の要件が緩和されたなど、今後は更なる利用拡大を図り、緑化を推進していく。
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
	ふるさと景観づくり推進事業は、わたしのはんだ発見！風景絵画&フォトコンテストを実施し、半田市の景観のPRを行うとともに、景観条例に基づく対象行為に対し景観アドバイスをを行い良好な景観形成に努めた。また、校区内に景観形成重点地区を有する2校の半田市の次代を担う小学生を対象とした出前講座により、景観に対する意識向上を図った。 景観形成重点地区整備事業は、岩滑地区において、景観に配慮した岩滑西橋の高欄の整備を行うとともに、併せて地区住民に補助金の活用を促すため、戸別訪問によるPRを行った。 児童遊園、ちびっ子広場、街路、公園等の管理については、遊具保守点検に基づく計画的な改修・修繕等を実施するとともに、職員による月1回のパトロールにより、危険箇所や樹木剪定の必要な樹木を早期発見し対応することで、利用者や歩行者などの安全を確保した。なお、遊具の改修について、国の補助制度の活用により実施した。ちびっ子広場、児童遊園については、ベンチを45基設置し、休憩施設の充実を図った。 任坊山公園整備事業は、着工前に有識者立会いのもと残すべき樹木の選定を行い、既存の自然を極力残すように努め造成工事を実施した。また、造成に必要な12,500㎡の土砂を無償で受け入れ、コスト縮減を図った。 あいち森と緑づくり事業は、道池公園を潤いある緑の公園へと様変わりさせた。また、自治区による植樹会を行った成岩本町公園は、自ら植樹したことで愛着も湧き、区民に親しまれる公園とした。毎年数件利用される民有地緑化は、広報活動により利用拡大に努めたい。					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
	ふるさと景観づくり事業は、良好な景観形成を図るため、条例に基づく景観アドバイス、また、小学生に景観形成の大切さを理解してもらうために行っている出前講座を継続して実施すること。 景観形成重点地区整備事業は、景観形成重点地区における、景観形成推進を図るため、地元住民や関係団体の意見を聞きながら、事業化を進めるとともに、補助金による助成を周知するための戸別訪問を実施し、補助の活用を促すこと。 児童遊園、ちびっ子広場、街路、公園等の管理については、遊具保守点検に基づく改修・修繕等の早期対応により使用禁止の状態を防ぐとともに、職員による月1回のパトロールを継続して実施し、危険箇所や樹木剪定の必要な樹木を早期発見し対応することで、利用者や歩行者などの安全確保に努めること。また、遊具以外の公園施設についても、計画的な修繕・改修を実施すること。 任坊山公園整備事業は、地域の意見を踏まえて、有識者の確認の元、既存の自然を極力残し造成を進めることができた。今後も、地域の意見に沿った整備を進めること。 あいち森と緑づくり事業において整備した道池公園、成岩本町公園は、それぞれ、区民に親しまれる公園となった。今後も、この事業を活用し、市民が望む公園などの緑化に努めること。					